

『リリーのすべて』 原題 The Danish Girl 2015



© 2015 Universal Studios. All Rights Reserved.

公式サイト:<http://lili-movie.jp/>

配給:東宝東和

公開日:2016年3月18日(金)全国公開

映画批評

『リリーのすべて』(原題 The Danish Girl)

～手術によって自己アイデンティティを確立した画家アイナ・塚田三千代(翻訳家/映画アナリスト)

1926年、デンマークに実在した若き画家夫妻の無償の愛をアイナ・ヴェイナ(リリー・エルベ)の残した手記を基にして執筆した小説“The Danish Girl”が発表され、2000年に、ラムダ文学賞を受賞し、ニューヨーク・タイムズ紙の「注目の本」に選ばれた。2015年に、この小説を初めて映画化したのが、『リリーのすべて』である。



↑ 夫アイナにモデルの代行をしてもらって描くゲルダ

風景画に秀でるアイナ・ヴェイナと肖像画の得意なゲルダは結婚して、同じアトリエで絵を描いて互いに触発しあいながら忙しい日々を暮らしていた。二人は友人たちが羨むほど相思相愛の夫妻であった。

ある日、ゲルダが制作中のバレリーナの肖像画のモデルが突然休み、期日に仕上げなければならないゲルダの頼みに応えて、しかたなく夫のアイナーがモデルの代役を引き受けることになる。ところが、ロマンティックなバレエ衣装の甘美な感触が、アイナーが幼少の頃から心の奥で抑圧してきた“本当の自分”を浮かび上がらせてしまう。

“本当の自分”とは、アイナの心中に棲む女性願望である。しかしそれは一瞬の感覚にすぎなく、この時はしっかりと自覚したわけではなかった。ゲルダにせがまれてバレエのコスチュームを身に着けて、ゲルダの前でバレリーナのポーズをとり続けているうちに、アイナは女性の衣類から受ける感触にますます強く惹かれていく。

絵の注文主のバレリーナのウラが絵の完成を見にやってきて、アイナのバレリーナ姿をみて驚くが、手に抱えた百合の花束をアイナに捧げて、「あなたはリリーよ」と云った。それはバレリーナに扮した美しいモデル、アイナへの賛辞であった。



↑ 女装してリリーに変身



↑ ゲルダはリリーをモデルにして描く

一方のゲルダは注文通りのポーズをとってくれる良きモデル(アイナの女装)を身近に得て、次々と自分好みの衣裳をアイナに着せてモデルになってもらう。そしてモデルのポーズと一緒に考え、それを絵に表現することで、ゲルダは夫と共に創作しているという充実感に浸っていた。色々な角度で苦勞なく絵筆が進み、デッサンや油彩の数が増え、ゲルダは心晴れやかに制作し続けた。

ところが、バレリーナ衣裳、そして二人で選んだ数々の衣服や装飾品を着けて、妻ゲルダが描く絵のモデルをしてくれた夫が、、、、



↑ 衣装を変えてアイナからリリーになるが、二つの自己の間を行き交う心の葛藤が見え隠れする

2度目の性別適合手術の後、高熱が下がらないでいながら、「これほどの愛に私は値しないわ、、、、母がリリーと呼んだ。」と言葉を残して、リリー・エルベ(元アイナ・ヴェイナ)はゲルダ・ヴェイナの腕に抱えられて目を閉じ静かに眠るかのように息を引き取った。

【映画情報】

第 88 回米・アカデミー賞女優助演賞をアリシア・ヴィキャンデルが受賞

製作年 2015 年 製作国 イギリス 配給 東宝東和 上映時間 120 分

言語 英語

映倫区分 R15+

スタッフ:

監督トム・フーパー 製作ゲイル・マトラックス アン・ハリソン ティム・ビーバン
エリック・フェルナー

脚本:ルシンダ・コクソン

キャスト:

エディ・レッドメイン: アイナ・ヴェイナ(リリー・エルベ)

アリシア・ヴィキャンデル: ゲルダ・ヴェイナ

ベン・ウィショー: ヘンリク

セバスチャン・コッホ: ヴァルネクロス

アンバー・ハード: ウラ

公開日:2016年3月18日(金)全国公開オフィシャルサイト:<http://lili-movie.jp/>

© 2015 Universal Studios. All Rights Reserved.

【映画リテラシー】(movie literacy)

映画は誕生してから100年以上の歴史がありますので、映画を適切に歴史的にも理解して、解釈・分析したポイントの記述を映画鑑賞では必要です。

『リリーのすべて』では、原作との違いや、映画からのメッセージに注目します。

■原作の翻訳:斎藤博昭 『リリーのすべて』 ハヤカワ文庫

映画と原作ではプロット構成が違う。The Danish Girl の著者デイヴィッド・エバーショフによると、「友人が送ってくれたジェンダーの論文から、世界で初めて性別適合手術に成功したアイナー・ヴェイナーの話を発見したのがきっかけです。、、、妻の助けによって変身を遂げたという文章は、この論文全体の中でひととき異彩を放ち、、、ニューヨーク公立図書館での調査の後、ようやくジェンダーと性的自己発見に関する本から、リリー・エルベとアイナー・ヴェイナーが同一人物であることをつきとめました。1933年、リリーの死後すぐに出版された彼女の日記と書簡を発見するに至り、私のリサーチは本格的に始まったのです。」と語っている。The Danish Girl は、実在したアイナー・ヴェイナーをモデルにしているものの、細かいエピソードの数々はデイヴィッド・エバーショフの創作である。(出典: 斎藤博昭 訳 『リリーのすべて』

2016.1.25)

●LGBT, Q の問題意識、ジェンダー、性別違和、性別適合手術

© 2017 m.tsukada. All Rights Reserved.